

益田地区大規模増殖場開発事業（抄録）

高橋伊武・石田健次

本調査は沿岸漁業整備開発事業の一環として昭和57、58年度に益田地区で主にマダイを取り上げ本種の資源量を増大させるに適した大規模増殖場の造成方法を策定することを目的としている。

資源量の増大方策はマダイ稚仔の着底時における餌料の多寡が自然減耗の大きな要因と考え、事業構想としては浅海域（水深30m以浅）の餌料の発生を促進するための餌料増殖礁、稚魚・未成魚期の減耗（害敵生物）を抑制する保護育成礁、成長に伴う沖合への誘導礁の造成などが必要と考えられる。

以上のことから本年度は漁業概況、漁場基礎条件および漁場生物学的条件を把握するための調査を実施した。

なお、詳細な調査結果は別に報告書（島水試資料No.16）を刊行したので参照されたい。

調 査 概 要

次の項目について調査を行い取りまとめを行った。

I 地区の漁業概況

1. 一般概況
2. 経営体の概況
3. 魚種・漁業種別漁獲量

II 漁場の基礎条件調査

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. 気象（気温、風向、風速、風浪、降水量） | 4. 流況 |
| 2. 河川 | 5. 海底地形 |
| 3. 水温 | 6. 底質 |

III 漁場の生物学的条件調査

1. 対象魚類（卵・稚仔、稚魚、未成魚から成魚、資源動向）
2. 他生物（プランクトン、ベントス、底棲魚類の分布）
3. 餌料生物（マダイの食性、マダイ着底期の餌料分布）
4. マダイの害敵生物